

8 -2 空港ではどんな職業の人が働いているのかな？

空港で働く人たち2

空港では安全・確実に飛行機を運航するために、様々な職員がそれぞれ専門的な仕事を行っています。実際に働く職員の仕事内容や、やりがいをご紹介します。



航空管制運航情報官

空港を360度見渡せる管制塔で、滑走路の状態や風向きなどの気象情報、他の航空機の飛行状況など、航空機が安全に飛行するために必要な様々な情報を集めてパイロットや航空会社に情報提供する仕事です。その他にパイロットなどが作成したフライトプランを審査したり、空港の状況や気象状況を発信するシステムを保守管理したりして、航空機の安全な飛行を支援しています。

この仕事に就くには？

高校を卒業して、航空保安大学校の航空情報科に入学し2年間実技と学科を学びます。航空保安大学に入学した時点で国土交通省に採用され、国家公務員として訓練を積みます。卒業後、全国の空港に配置され、必要な経験を積んで運航情報官の仕事につきます。

やりがい

パイロットや航空会社から「ありがとう」と言われた時。自分の提供した情報やアドバイスが、安全な運航に少しでも役に立ったと思うと同時に、提供する情報の責任の重さを実感します。



航空気象解説官

航空機は大気中を飛行することから、常に気象の影響を受けます。このため、航空機の安全かつ経済的な運航を支援するため、航空管制運航情報官やパイロットなど航空関係者に対して、航空気象観測や航空気象解説などの気象情報を提供しています。

※富士山静岡空港では、平成26年4月から航空気象観測業務は気象庁が委託した事業者が一部を担当し、航空気象解説業務は羽田空港にある東京航空地方気象台が遠隔で行う予定です。

この仕事に就くには？

国家公務員試験や気象大学校の学生採用試験に合格して気象庁職員となり、気象大学校等で気象業務に従事するために必要な教育や訓練を受けた後、赴任した空港で航空気象観測等の経験を積んで航空気象解説官になります。

やりがい

航空関係者などに対し観測した気象情報や予報などの気象解説を伝えることによって、安全で快適なフライトに貢献できることです。